

- 続きまして、令和3年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果について、御説明いたします。
- 国語や算数などの教科調査の結果につきましては8月31日に公表したところですが、臨時休業期間の長さとは各教科の平均正答率の間に相関関係は見られませんでした。
- このことは、各学校が臨時休業期間中の家庭訪問や電話連絡、臨時休業後の個別の指導や長期休業の短縮による授業確保など、あらゆる方法で児童生徒を支えてくださったおかげと考えております。改めて、教職員や関係者の皆様方の御尽力に感謝申し上げます。
- 一方で、同じく8月31日にホームページ等により公表しておりましたが、詳しく説明しておりませんでした質問紙調査の結果について、改めて御説明いたします。
- 今回の調査の結果、「自分にはよいところがある」と回答した児童が2年前の調査より減少しています。
- また、「将来の夢や目標がある」、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」、「学校に行くのは楽しい」、こういった項目につきまして、児童と生徒の両方で、減少しています。
- コロナ禍が児童生徒の心理面に及ぼす影響については、今後も懸念される場所であり、改めて各学校において、児童生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、授業改善と心理面のサポートの双方を進めていくよう、指導、支援してまいりたいと考えております。
- 具体的な方策として、今から申し上げます3つのことを考えております。
- 1つ目は、市町教育委員会等を対象とした「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた児童生徒支援のための合同研修会」を10月中旬に、オンラインで実施する予定です。

- 2つ目は、各学校における調査結果の分析等を支援するため、校内研修支援プログラム「I P P O（いっぽ）」を配付します。これはですね、各子供がどんな結果で、〔指導、支援に向けて〕どこを注力した方が良いのかというのが、一目で見える化しているような、こういったものでございます。

- 3つ目です。今後、臨時休業等になった時に備えまして、これはいつなるか分からないというのが今のこのコロナ禍であると思います。小・中学校等でオンラインによる教育活動が実施できる態勢を整えられるよう、広島県教育委員会として各市町教育委員会に伴走してまいりたいと思っております。

- 最後に、やはり、県教育委員会として一番懸念しておりますのは、児童生徒の心への影響です。コロナ禍により、児童生徒の学校生活、学習環境は大きく変化することとなりました。そう考えますと、心理面の影響があるのは当然のことだと思えます。ただ、こうした時だからこそ、子供たちの成長を見守り、支援する立場である我々大人の日々の振る舞いが大切になってくると思えます。こういう時期であるからこそ、なるべく明るく生活するよう心掛ける〔ことが大切である〕と、私自身も思っております。今一度、ご家庭、地域、学校で、子供たちの成長を温かく見守り、お声掛けいただければと思います。よろしく申し上げます。

- 説明は以上です。